

2024 年 5 月 20 日

2023 年度 原油価格・物価高騰、子育て及び新型コロナ対応支援枠
「悩みや困難を抱えた子どもと家族のための地域連携支援プログラム」

採択結果について

認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

【審査過程】

・公募要領公開・公募受付開始	2024 年 4 月 1 日
・公募説明会の開催	2024 年 4 月 5 日
・公募締切	2024 年 4 月 19 日
・審査会（外部審査員 5 人による審査の実施）	2024 年 5 月 9 日

【外部審査員】

（あいうえお順）

名 前	所 属
今井 久	公益財団法人山梨総合研究所 理事長
進藤 明美	山梨県社会福祉協議会コミュニティ再生推進室 室長
高木 寛之	山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科 教授
宮澤 由佳	社会福祉法人こどものあした福祉会 理事長
山本 久美子	山梨日日新聞社 論説委員

【採択団体】

（あいうえお順）

団体名	芦安ママズ
事業名	子育ての地域力 UP！ ～住民みんなが家族のように関わり、不安のない子育てができる地域をつくるプログラム～
事業概要	<p>本事業が対象とする芦安地域は人口約 230 名、国の規定により、過疎化地域とみなされる小さな集落です。人口は昭和 35 年の 1,161 人をピークに減少し続け、平成 25 年に芦安保育所が閉園。現在子育て世帯数 14 世帯、子ども 24 人と少ないため、仲間作りが困難となり、さらには児童館や子育て支援センターも地域内に存在せず、困った時に声をあげる場所や相談する相手が見つからないので、子育て世代が孤立するという状況に直面しています。</p> <p>そして 2019 年のコロナをきっかけに、高齢者の多い芦安地域では地域内でのコミュニケーションも格段に減少し、関心のある地域住民も、子育て世代との関わりがなくなり、子育ての現状の厳しさ、手を差し伸べる機会もなくなってしまいました。現在では、子育て家庭の孤立化に拍車がかかった状態のままとなっています。</p> <p>そこで、地域の子どもたちをみんなで見守れるような、地域コミュニティを再生する事業が必要と考え、地域がみんなで作り、一緒に食べる「地域食堂」を開催します。老若男女問わず、さまざまな世代、多様な環境におかれた人たちが「食」をテーマに、気軽に地域に関われる機会をつくることで、</p>

	顔の見える関係をつくり、地域コミュニティの再生を図ります。運営は地域で子育てをするママ・パパたちが中心となり、自治会や地域で活動する団体と連携して進めます。地域で経済活動をする団体（旅館組合はたごの会）が食事を企画、おやつ調理ボランティア（かたくりの会）が調理を支援します。さらには地域住民をはじめ参加者全員が活躍できるような、みんなで楽しめるプログラムを子どもたちと企画しながら、幅広い世代が気軽に地域に関わり、参加できる、小さなコミュニティだからこそできる村民全員参加を目指す地域食堂を実施することで、地域力をつけ、地域全体で子育てを支え、自治のチカラをつけることで、安心して子育てができる地域づくりを行います。
選定理由	若い母親たちが地域を巻き込み、主体的に子育て支援に取り組む事業であり、過疎化に悩む中山間地域で、同じ状況にある地域に応用できる、子育て支援モデル事業となることを期待する。
助成額	総額：3,500,000円 管理的経費：626,500円 直接事業費：2,873,500円

※事業概要・助成額は、実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき記載、算定しております。

団体名	特定非営利活動法人きらきら星
事業名	外遊び推進プロジェクト
事業概要	<p>当団体は活動を行う中で、こどもが自然の中で自分の意志で自由に遊ぶことが、こどもの心身発達に大きく寄与すること、保護者がリラックスできること、他者と触れ合うことに喜びを感じられるようになることに気づき、この活動をさらに全てのこどもたちへ広げたいと考えていた。しかし、当団体の組織基盤が脆弱であったこと、都市部の外遊びプログラムを取り入れても、こどもが圧倒的に少ないこと、もともと自然豊かな環境なのだが、その自然の中で遊ぶ価値が理解されず、うまくいかなかった。そのため、その課題に対して、</p> <p>一、未就園児対象の当団体が地域へ出向く出張外遊び会と学校が休みの日に開催する出張プレーパークを、お金を持ってこなくても遊べるようなこども食堂や野外炊飯などの食事の確保と同時に行う。</p> <p>二、こどもや保護者にとって支援者は非常に大切な存在であること、野外では予期せぬ怪我、事故も起きやすいため、研修、先進事例の視察を通して、人材育成を行う。また、地域ごとのこどもの特性を知り、自然の中で遊ぶ大切さを知ることは少子化の現在、こどもがのびのびと成長するために必要であることから、一般の方対象の講演会を行う。</p> <p>三、次年度へ繋げていくために、全国規模で発信できるHPや動画の作成を行い、こどもの外遊びの理解を促進する。</p> <p>これらの活動により、こどもの心身の健全な発達、孤立した子育ての解消、こどもに寄り添う支援ができる人材の育成、こどもの休日・放課後プログラムの充実、こどもと地域をつなぎ、こどもを軸とした地域活性化を全国の中山間地域のモデルとなるべく活動する。</p>
選定理由	子どもとその保護者への支援、地域住民への働きかけ、活動にかかわる人材育成や就労支援が一体となった事業計画で、将来の活動の展開も見える。本事業の学びや成果が、他団体とも共有され、中山間地域での子ども支援モデルとなることを期待する。

助成額	総額：5,000,000 円 管理的経費：1,000,000 円 直接事業費：4,000,000 円
-----	---

※事業概要・助成額は、実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき記載、算定しております。

団体名	社会福祉法人子育て・発達の里
事業名	妊娠そうっと SOS 山梨
事業概要	<p>当法人の乳児院に入所する子どもたちは若年出産児が多く、一人で悩み誰にも相談できずに出産するしかない状況にありました。令和2年10月より妊娠葛藤相談の窓口を開設して活動してきましたが、相談の中で予期しない妊娠の背景には、貧困、虐待などの複合的な環境や困難を抱えてきたことが聴かれます。相談者の声や相談状況を、令和6年度から施行される「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の県の検討会の構成員として3回参加し報告しました。</p> <p>①妊娠する過程には男女2人いるはずですが、生物学的に妊娠のできる女性だけが予期しない妊娠の負担や責任を負わされ、困難を抱えることとなります。孤立出産で産まれた子が遺棄された事件が山梨でも昨年2件ありましたが、妊娠は一人で抱えきれものではありません。電話、LINE、メールなどの相談窓口を匿名で広く相談を受け、一人で困難を抱えてきた方々に寄り添い、相談することが安心安全につながるという経験が今後の生活に活かされるように関わります。また、公認心理師によるカウンセリングを行うことで、妊娠、中絶、出産前後に丁寧に関わります。</p> <p>②特に多い相談は、受診や中絶費の工面などの経済的な支援です。山梨県では国が示す「性と健康の相談支援センター事業」の「特定妊婦や若年妊婦等に対する産婦人科受診等支援」等が整備されていない現状であり、初診費、アフターピル代、妊娠検査薬代など、ハードルが高く医療に雇れないという相談者に同行し費用の補助をすることで医療やその後の支援につながります。県に費用の補助や同行支援についての必要性を訴え、今後県の事業として取り組めるよう訴え、費用の面で妊娠をネガティブに捉える相談者が少なくなるよう活動します。</p> <p>③今年度は、行政などの相談になかなかとり着けなかった相談者が SOS 発信の広告に家にいてもつながれるように SNS 等を用いた広報を行います。</p> <p>また、昨年度必要とする声があった生活物資や緊急避難所の提供、研修の開催により支援技術の向上、関係機関との体制強化・整備していくことで、妊娠によって困難を抱えた方たちが安全安心した気持ちでその後の選択ができる場所が身近にあることを感じられるよう関わります。</p>
選定理由	県内での予期せぬ妊娠に特化した相談支援団体としての実績をもとに、支援充実のニーズにこたえようとする事業であり、県内で民間が行う必要な支援という重要性を理解し、継続支援の成果が期待できる。
助成額	総額：5,000,000 円 管理的経費：558,000 円 直接事業費：4,442,000 円

※事業概要・助成額は、実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき記載、算定しております。

団体名	特定非営利活動法人 Happy Space ゆうゆうゆう
事業名	地域で支えあう家事・子育てサポート KajiCo 事業
事業概要	<p>核家族化が進み、家事・育児の負担が夫婦、または、妻だけ（ワンオペ）に大きく申し掛かっている現状が以前変わりません。アウェイ育児（すぐに頼れる人が誰もいない場所で子育てしている）も増え、その数は 70 パーセントを超えています。（子育てひろば全国協議会調査）</p> <p>特に産後は、母子の健康にも関わってくる重要課題で、緊急的に地域で支えあう仕組み作りが必要です。出産退院後、そのまま自宅に戻り、サポートなしで慣れない育児と家事を行わなくてはならない家庭が、増えていることも現実です。アウェイ育児に加え、近くに実家があっても地域柄、農繁期にはサポートしてもらえない、実母との関係が悪く、頼れないなど理由は様々です。</p> <p>たくさんの子育て支援事業がある中、ファミリーサポート事業では、子どもを預かることはできても家庭をまるごと支援することができないので、何年もの間、課題となっていました。また、家事支援は、行政が認めたりスクのある家庭に限定されているため、気軽に利用することができないのも現状です。子どもが小さいときだけ(小学6年生まで) でもいいので、利用したいと思う家庭すべてをサポートすることができたらと考えます。</p> <p>現在、子育てに関わる資格（子育て支援員、ファミサポ協力会員、ホームスタートビジター他）を持っている方が地域にたくさんいます。この方たちに、協力（有償ボランティア）をお願いし、子育て中に特化した地域で子育て家庭をまるごと支えあう仕組みを作りたいと思います。家事サポート、産前産後、緊急支援（病児・病後児）を段階的に資格取得できる講座を開催することでその仕組みを構築していきます。</p> <p>笛吹市で実績を積み、県内の他市町村にも広げていくことを目標にし、最終目的は、全国に広めていきたいと考えています。</p>
選定理由	地域の子育て家庭の課題を把握し、どんな支援が必要か、ニーズを的確に捉えている事業であり、人材育成、支援サービスの提供まで、集中して取り組み、他地域への民間の支援サービスの波及効果が期待できる。
助成額	総額：5,000,000 円 管理的経費：470,000 円 直接事業費：4,530,000 円

※事業概要・助成額は、実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき記載、算定しております。

団体名	ぽかぽかキャンプ
事業名	ぽかぽかマルシェ
事業概要	<p>日本社会における家族のあり方の多様化の中で、核家族の増加によりコミュニティの縮小が進み、各家庭は孤立しやすくなっており、家庭の教育機能が低下していると言われている。とりわけ、障がい児のいる家庭にとっては一般的な育児に加え、障がいに起因する、それに多く付随する負荷がかかっていることは明白であり、その結果日常生活を送ることですら困難が多く、様々な福祉制度を利用しながら生活を送っているのが現状である。各種福祉制度によって、専門的教育や福祉サービスを受けることはでき、一人間として不足のない生活を送ることはできるが、特別支援教育や福祉作業所など、教育の場でも社会に出てからも特別な支援を受け、生涯にわたり支援される側として社会の中で生きていくことがほとんどである。子ども自身が社会と</p>

	<p>の接点をもちにくい環境にいることに不満を感じている親も少なくないが、その一方で支援される側という認識を強くもち、社会との接点を多く持つことに追い目を感じ選択できない親も多い。障がい起因する不安によって、社会に対して消極的であり、やりたいことを我慢したり、そもそもできないと思い込んでいるため、今を楽しみ、将来に希望をもつことができる親が少ないことが弊団体が最も懸念する問題であり、課題である。</p> <p>本事業では、参加者がやってみたいことや好きなことをお店という形で出店する「ぽかぽかマルシェ」というイベントを開催する。誰もが安心して楽しみながら参加でき、役割と対価が循環する小さな社会を体験することで、自分も社会の一員であることを実感できる場を提供する。本事業を通じて、人の役に立つ経験や人と交流して繋がりをつくることで、社会と接点を持つことに安心感をもたらすことができると考える。ここで形成された安心感とは、「支援される側」と「支援する側」を超えた対等な関係に変わり、多様性を受容した暮らしやすい社会の実現につながっていくと考える。</p>
選定理由	障がい児や家族が主体的に社会と接点をもち、障がい者自らが作り出す社会資源開発の着眼点、声をあげる機会をつくることは、地域共生社会の実現にもつながることが期待できる。
助成額	総額：5,000,000 円 管理的経費：378,275 円 直接事業費：4,621,725 円

※事業概要・助成額は、実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき記載、算定しております。

団体名	特定非営利活動法人 WakuWaku の家
事業名	不登校・発達障害の悩みや困難を抱えた子どもと家族を救う連携支援プログラム 点と点をつなぐ支援・仕組みの構築を目指して
事業概要	<p>文科省の問題行動・不登校調査によると、山梨県内での不登校児 2024 人（30 日以上欠席）を超え、過去最多を更新している。</p> <p>多くの子どもたち、保護者の方達が悩み、不安を抱えている中、その悩みや解決に向けた相談をする先は、学校・行政・医療・民間と場はあるものの、それぞれが独立しており、連携を取る体制が組まれていない。そんな中で子ども達やその保護者の方達は、なかなか出口の見えない日々不安を募らせ、対策が遅れることで状況が悪化していることも少なくない。不登校児と言われる子ども達の約 8 割が居場所を見つけられず、自宅にいると言われていた。また、学校以外の学びの場・居場所についての情報が少ないことでより孤立感を強める結果となっている。</p> <p>不登校児を抱える親の悩みとして、「我が子が不登校になった、学校生活に馴染めない（問題行動）と指摘された時に、まず何をすればいいかわからない。」そして、「家族・地域の人からの目が気になり、どこにも相談できない。」という意見が多く聞かれてきた。</p> <p>そこで、子ども達や保護者の方達の第 3 の居場所として活動していくことで、孤立している親子と繋がっていききたい。更に同じ境遇を抱えた親子同士のコミュニティーの場となったり、親子の悩みを受け止めて力となっていける専門家を交えた支援体制作りをしたり、公的機関と連携しながら子どもの居場所作りに尽力していきたい。</p> <p>これらの現状を改善していくために、以下の 5 つを事業内容として実施して</p>

	<p>いく。</p> <p>①民間のよさを発揮した相談窓口を作る ②不登校フォーラムの開催 ③不登校支援者のネットワークの構築 ④親の会の開催 ①情報提供の窓口 ②相談業務 ③子どもが安心して居られる場作りの継続 ④保護者同士のつながり ⑤仕組み作りと広がり（組織・資金）</p> <p>以上の事業により、私たちは山梨市から近隣の市町村また全県に向けて『不登校・発達障害の悩みや困難を抱えた子どもと家族を救う連携支援』を目指していく。</p>
選定理由	不登校・発達障害の子どもや家族のニーズを的確に捉え、具体的に相談する場がない、相談しても必要で十分な支援につながらないという地域課題に対し、4者連携の支援体制構築の取り組みを進めることが期待できる。
助成額	総額：5,000,000円 管理的経費：45,000円 直接事業費：4,955,000円

※事業概要・助成額は、実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき記載、算定しております。

団体名	一般社団法人ワンオブハート
事業名	急増する不登校児童のための支援事業
事業概要	<p>私達は、本事業を通してフリースクール関係者のみならず、不登校児の保護者や学校の先生、行政の関係者など不登校関係者のネットワークを構築し、山梨県に対してフリースクール認証制度の政策提言を行う。山梨県のみならず全国的に不登校児童が急増している。これまでの不登校対策は学校復帰を目的とするものが主であったが、それは真の不登校対策とはなっておらず、不登校児童は増加の一途を辿っている。真の不登校対策とは、学校以外の学びの場が周知され、子ども達が学びの場を選べる環境を整えることではないか。しかし、現状は学校以外の学びの場の認知度は低く、全国約30万人いる不登校児童のうち約4割に当たる11万人を超える子ども達がどこにも繋がっておらず、自宅に引きこもっている状態である。このように不登校になると、どこにも行き場がなくなってしまうことが最大の問題点であると考えている。よって、学校以外の学びの場が周知され、子ども達が学びの場を選べる社会の実現に向けた取り組みを行う。</p> <p>具体的には、今運営しているフリースクールに「自立支援プログラム」を導入し、コンテンツの充実を図ると共に、月に1度子ども食堂を実施して、フリースクールの存在を知らない子ども達や地域の方々にフリースクールの存在を知ってもらう機会を設け、更には他地域のフリースクールとも積極的に連携を図っていく。今年の8月には県内のフリースクール代表者で構成される「山梨県フリースクール連絡会」主催で『山梨県不登校フォーラム2024』を開催。フリースクール・親の会・行政・学校の先生などが一堂に会する場を設けることで、それぞれの垣根を超えた連携体制を構築する契機とすると共にどこにも繋がっていない不登校児童とその保護者に対する啓蒙へ</p>

	と繋げていく所存である。 このように、多種多様な方々と連携して、不登校に対する社会的理解が進むような事業を実施する。ちなみに私達は、子ども達が学びの場を選べるようになって不登校という言葉すら無い社会の実現を目指している。そこに向けての第一歩として本事業に取り組んでいく。
選定理由	どこにもつながっていない子どもたちの居場所、地域の理解や協力を巻き込む交流の機会をつくり、他団体との連携により、フリースクールに対する地域の理解や公的支援制度導入への働きかけが期待できる。
助成額	総額：1,500,000 円 管理的経費：170,000 円 直接事業費：1,330,000 円

※事業概要・助成額は、実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき記載、算定しております。

以上